

管理期からの 保健師活動の継承

— 北海道の保健師達の語りを届ける —

旭川医科大学医学部看護学科 准教授 塩川 幸子

本日の報告内容

□保健師活動の継承～熟練保健師の語りから

- －何を継承したいか、その方法は？
- －保健所保健師の活動特性に応じた継承とは？
- －管理期保健師自身の継承体験を振り返る
- －管理期保健師の継承に対する意識

□研究を通して語り合った成果から見えてきたこと

- －世代を超えて保健師活動をつないでいくために

北海道の概況

面積：83,456km²
 人口：約538万人
 二次医療圏：21
 三次医療圏：6



札幌市と根室市の距離は
東京・大阪間に相当

稚内市

● 道立保健所(26)
 ● 市立保健所(4)

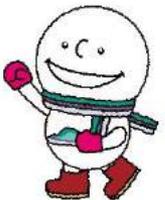
区分	数	保健師数
市町村	179	1,696人
道立保健所	26	284人

(H28年度保健師活動領域調査 H28.5.1)

札幌市

根室市

函館市



凡例
 ● 市役所
 ○ 町村役場

研究の背景

北海道立保健所は**26保健所**が広域に点在し、保健師は数年毎に異動する中、地元と共に活動展開してきた。

近年、熟練保健師の退職に伴う世代交代や**分散配置10年間**を経て、活動の継承が課題となっている。



＜北海道の保健所保健師の活動体制＞

～平成15年度

平成16～24年度

平成25年度～

地区担当制

業務別分散配置

新・地区担当制

研究目的(何を明らかにしたいか)

- ・管理期保健師が考える保健師活動の**継承の内容と方法**
- ・保健所保健師の活動特性に応じた継承における**困難と対処方法**
- ・管理期保健師自身の**継承体験**
- ・管理期保健師と中堅期保健師の活動継承に対する**意識**

保健師活動の継承に関する研究

	研究テーマ	方法	対象	年度
1	熟練保健師が語る保健師活動の継承の内容と方法	<ul style="list-style-type: none">・管理期保健師の活動報告(40分)・グループインタビュー(120分)	A保健所管内の保健所・市町村保健師	H25
2	保健所保健師の活動特性に応じた継承における困難と対処方法	<ul style="list-style-type: none">・大学教員の講義(40分)・グループ討議・発表(60分)・グループインタビュー(120分)	道立保健所保健師(北海道公衆衛生看護を語る会)	H27
3	管理期保健師の公衆衛生看護活動の継承体験	<ul style="list-style-type: none">・管理期保健師の活動報告(40分)・グループインタビュー(120分)	B保健所管内の保健所・市町村保健師	H27
4	管理期保健師の活動継承に対する意識	<ul style="list-style-type: none">・管理期保健師の活動報告(40分)・ケアカフェ(90分)、アンケート・研究報告	〃	H28

研究方法

- ▶ **対象**：北海道の市町村又は保健所に勤務する管理期保健師
(保健師経験年数 15年以上、係長職以上)
- ▶ **調査期間**：平成25(2013)～平成28(2016)年度
- ▶ **場所**：市町村・保健所内の個室、大学のサテライトキャンパス
- ▶ **方法**：保健所管内で行う管理期研修と研究の合同企画

	方法	テーマ等	研究
1	活動報告	「保健師としての活動経過と継承」 報告者 保健所管内で長年活動してきた管理期保健師	1,3,4
2	講義	「保健師らしい活動の方法を考える」(大学教員)	2
3	グループインタビュー	「保健師活動の継承」について、各自の継承体験を語り合い、継承を考える	1,2,3
4	ケアカフェ	管理期保健師に求められる能力・役割 —後輩に引き継ぎたいこと—	4
5	アンケート	活動報告を聴き保健師活動のコアとして大事にしていきたいと感じたこと、次期リーダーへの期待等	4

インタビューガイド

(※研究テーマごとの重点◎)

	インタビュー内容	研究			
		1	2	3	4
1	あなたのこれまでの保健師活動について、 活動の継承という視点から振り返り、先輩から受け継いだと思うこと (例:先輩の姿や言葉で印象に残っていること、その場面)	◎	○	◎	○
2	後輩に引き継ごうとしてきたこと (日頃どのような言葉をかけているか、一緒に活動してきたこと等)	○	◎	○	◎
3	保健師活動の継承のためには、 どのようなことを伝えていくことが大切か	◎	○	○	○
4	保健師活動を継承していくために 必要なこと	◎	◎	○	○
5	自身の保健師活動 をとおして感じること(やりがい、面白さ、難しさ、感動、大切にしてきたこと、学び等)	◎	◎	◎	◎
6	保健所保健師ならではの活動の継承とは		◎		
7	次期リーダーへの期待				◎

分析方法

- ・内容は対象者の許可を得て録音し、逐語録を作成した。
- ・逐語録から「管理期保健師自身が先輩から継承され、後輩に引き継いでいきたいこと」に関する発言をコード化、意味内容の類似性をもとにサブカテゴリ、カテゴリを生成。
- ・分析は、複数の研究者と現場の管理期保健師で行い、妥当性確保に努めた。

倫理的配慮

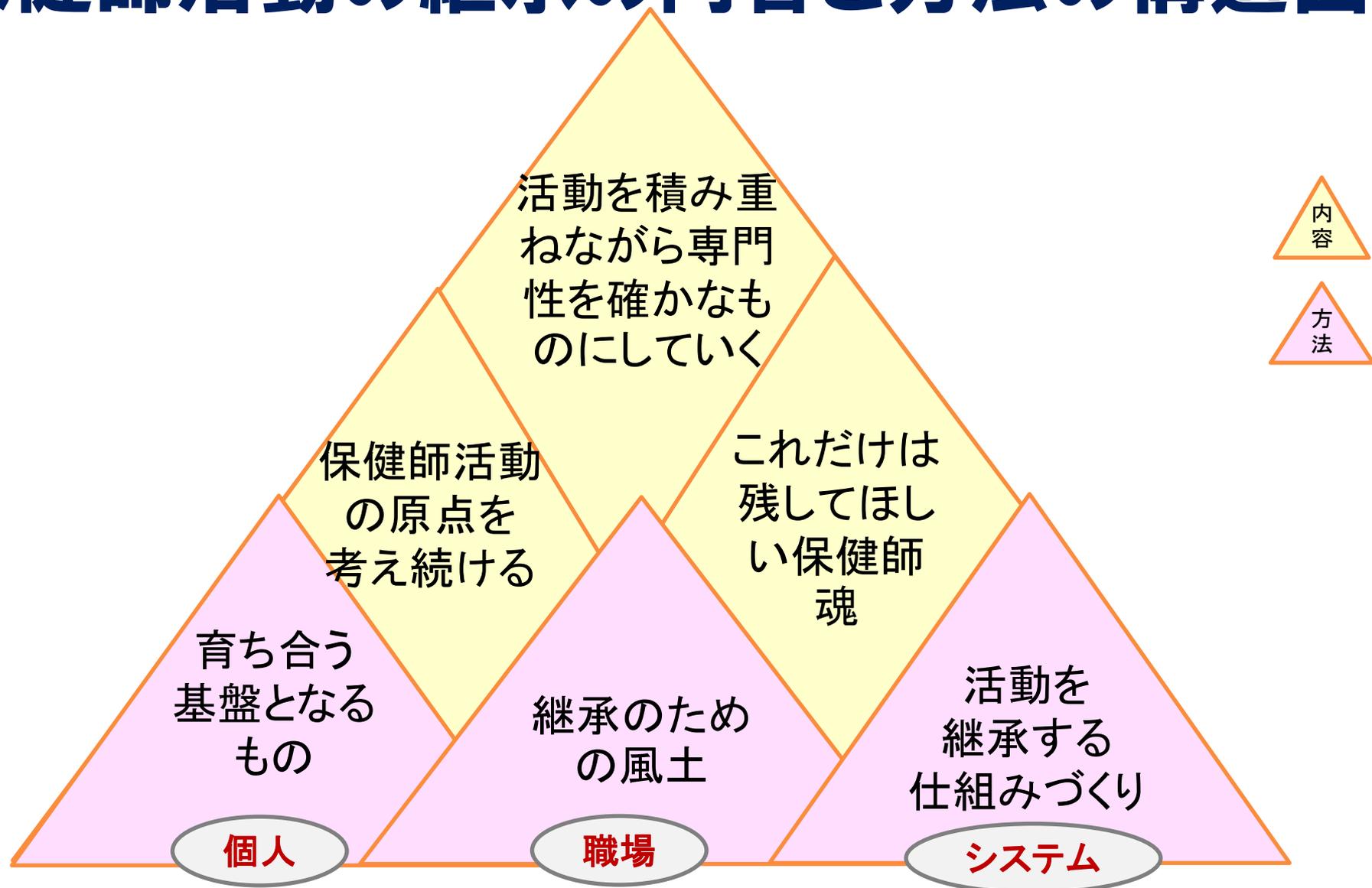
- ・対象者に対して、研究目的と方法、匿名性の確保等について文書及び口頭で説明し、同意書により承諾を得た
- ・旭川医科大学倫理委員会の承認を受けて実施(承認番号第1632号)

研究参加者の概要(研究1-4)

研究	参加人数	性別		保健師 経験年数	所属		職位		
		女	男		市町村	保健所	課長 以上	主幹	係長・ 主査
1	8	7	1	17~35年 (平均28.1年)	6	2	1	5	2
2	6	6	0	16~33年 (平均24.0年)		6	2	1	3
3	10	10	0	19~37年 (平均27.0年)	9	1	2	1	7
4	6	6	0	20~36年 (平均25.0年)	6	0	2	0	4
計	30	29	1	16~37年 (平均26.0年)	21	9	7	7	16

研究1

保健師活動の継承の内容と方法の構造図



研究2 保健所保健師の活動特性に応じた継承 における困難と対処方法

困難

地区を見る視点が培われにくい活動体制が続いたことのジレンマ

家庭訪問の体験の減少による判断力育成の難しさ

次世代保健師に地区活動の醍醐味が伝わっていないもどかしさ

対処方法

裁量権を活かした活動展開の推進

自身が育てられた経験から対人支援の土台の継承を模索する

市町村とつながり広域的な保健所の役割を見出していく

保健師の専門性を言語化して伝えていく

地域への愛着と保健師活動のやりがいとともに育む

研究2 保健所保健師の活動特性に応じた継承の困難と対処方法をふまえた管理期保健師の役割

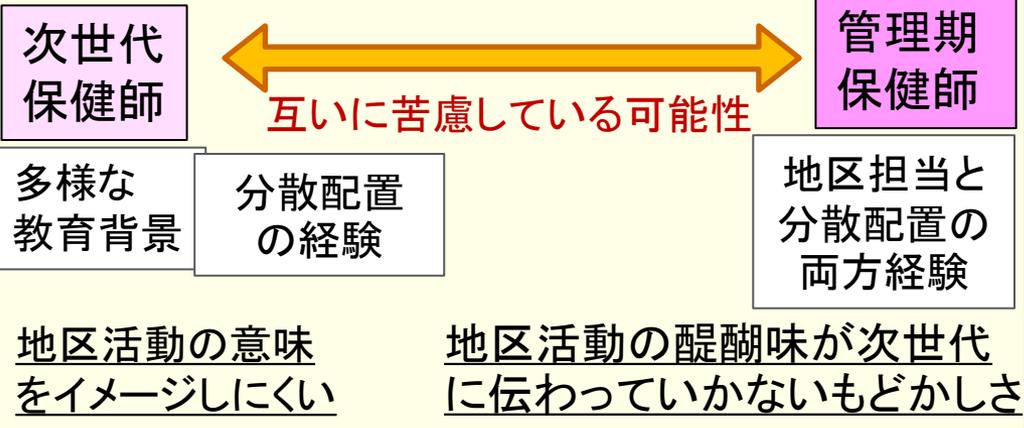
広域異動や健康危機管理が先鋭化する保健所保健師の活動特性の影響

- <管理期保健師が感じている困難>
- ・緊急対応が優先され、**予防活動の狭まり**
 - ・家庭訪問など**地区に出向く活動の減少**
 - ・**市町村との接点の減少**



地区をみる視点が培われにくい体制

- ・答えを求める傾向から**判断力育成の難しさ**
- ・**地域の課題を共有する技術の習得困難**



管理期保健師の役割

保健所保健師らしい継承を模索...

- 柔軟に事業展開できる体制作り
 - ・予防の視点から時代のニーズに合わせた**地区活動の再構築**
 - ・**市町村支援のやりがい**を共有
- 保健師の専門性を問いかけ、考え続ける組織風土づくり
 - ・対人支援の土台づくりの後押し
 - ・保健所保健師の役割を見出す
 - ・**地域への愛着を育む**



「担当地区が故郷」

何とかしたいという原動力



地域のシステム作り



研究3

管理期保健師の継承体験

カテゴリー(5)

サブカテゴリー(26)

活動の意味を議論しあう
関係の中で育つ

先輩後輩が活動体験を言語化しあう
良いところも悪いところも一緒に経験する
答えを教えるのではなく自分で考える問いかけをする
活動を整理するプロセスを共有し自信をつける
節目で保健師の役割や専門性を考える
先輩の活動があったから今があると思う

自分しか知らない歴史を
記録しエッセンスを見出す

計画書は活動のエッセンスの宝庫と思う
年表を作り活動経過を残していく
経過をふまえて何を大切にしていけばいいか考える
思考過程が見える記録を目指す

実力より上の課題に立ち向かう

個別支援だけで解決できないことを地域の支援に広げる
困難事例との出逢いを地域を動かす原動力にしていく
行政批判を恐れない
活動を地域に浸透させるために住民の力を引き出す
保健所からの提案を手探りでやってみる
苦労を共にした経験を次の課題解決につなげる

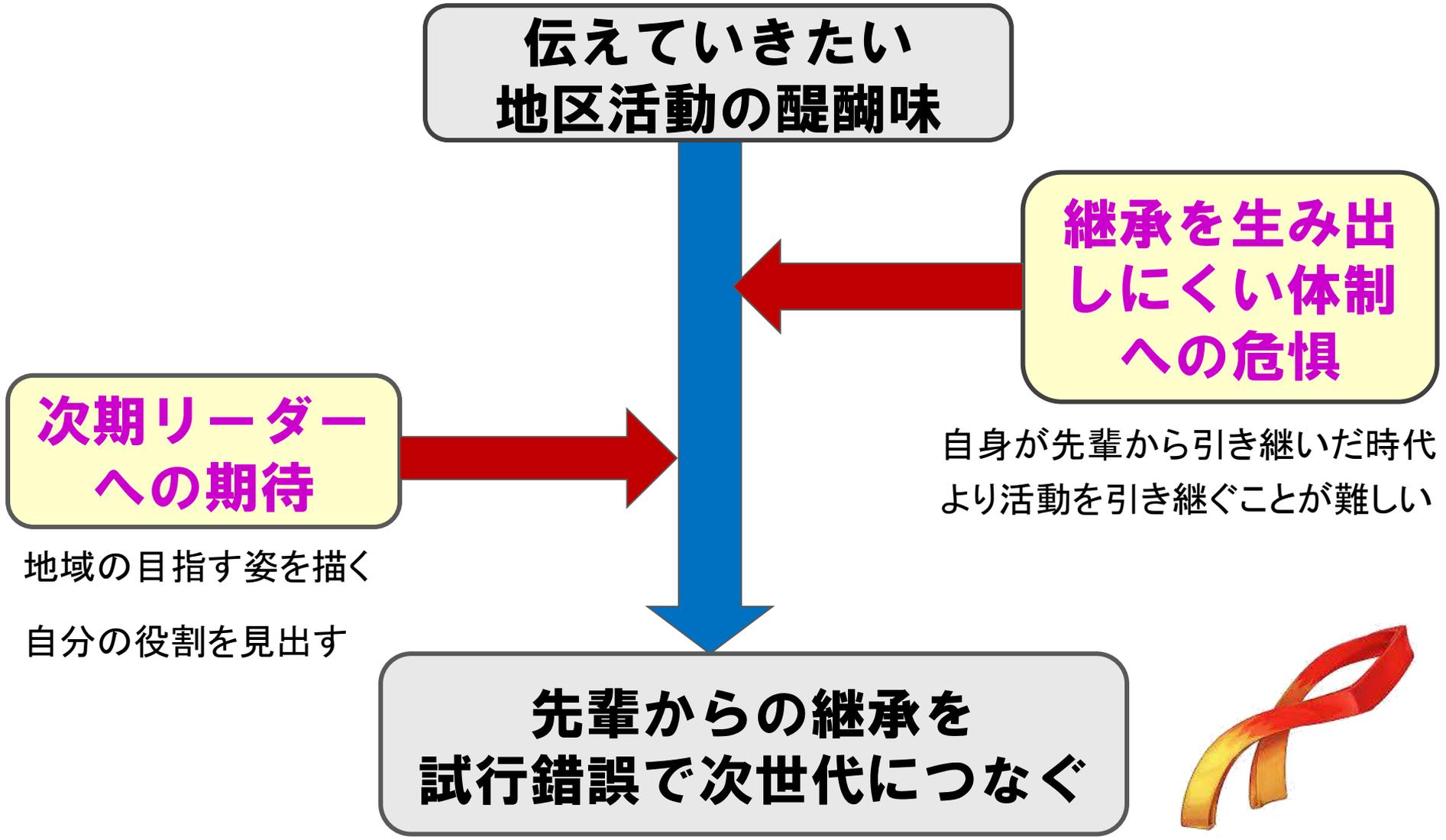
保健事業の評価の場こそが継承となる

地域の目指す姿をゴールに保健事業を企画する
データ分析から予防活動の効果をつかむ
何が成果として評価すべきことなのか視点を共有する
マニュアル通りではなく時代の流れの中で変えていく

人を育てる経験から危機感を覚え継承に向き合う

人材育成に関わり初心に戻ることで原点を振り返る
後輩の自信につながるフィードバックをする
先輩後輩と一緒に地域課題解決プロセスをふむ
肌で感じてきたやりがいや面白さを技術と共に伝える
人の心を動かす湧きあがる思いと冷静な判断を持つ
自分中心から全体を見渡す働き方へ変化させる

研究4 管理期保健師の継承に対する意識



管理期保健師の継承に対する意識

カテゴリー(4)

サブカテゴリー(18)

伝えていきたい地区活動の醍醐味

基本は地域に出向く活動
個人と地域の健康課題をつなげて考え続ける
住民の目線で仕事をする
時代のニーズを意識し予測して動く
協働の経験から人々の力を感じる

継承を生み出しにくい体制への危惧

世代交代の危機感を共有しにくい
部門を越えた共有の捉え方に温度差がある
縦割りで多様な相談に乗る機会が少ない

次期リーダーへの期待

地域の目指す姿をビジョンとして描く
活動のモチベーションを高める
この地域で長く仕事を続ける勇気を持つ
先輩の姿から自分の役割を見出す

先輩からの継承を試行錯誤で次世代につなぐ

スタッフの個性や様子に着目した声かけ
同じ場面を共有して手本を見せる
困っている時に一緒に考え方向性を整理する
次の事例の支援に生かせるサポート
計画づくりを通して思考プロセスを共有する
自身の活動の歴史を振り返りまとめる

まとめ 保健師活動の継承 Keywords

➤ 振り返り → **活動の言語化** → 分かち合い

元々持つ感性

職を通して育てられた体験

保健師としての今の自分

語る

歴史を
書き残す

計画づくり・評価
こそ継承の場

➤ **実力より少し上の課題**に取り組む → 成長

➤ 住民を中心に置く → 協働 → **まちづくり**

➤ 世代交代の**危機感** ⇔ **次につなぐ意識**

➤ **保健師の専門性**を考え続ける

➤ **キャリア**を意識しながら働き続ける **MY年表**

その年代ですべきこと、求められる役割を担う

